



前略 いつもお世話になっております、今月号の事務所だよりをお届けしますので、ご査収下さいますようお願い申し上げます。

決算に影響を与える貸倒引当金

8月の日経新聞に、中部地銀4~6月、全7行純益増「コロナ融資」追い風に！と出ていました。

中部の地銀7行・グループの年4~6月期の連結決算が出そろった。貸出金残高の増加で利息収入が伸び、全行の純利益が前年同期に比べ増加した。公的保証による融資で企業倒産は低水準で推移する。貸出先の経営悪化に備えて計上する引当金などの与信関係費用が想定より少なかったことも利益を押し上げた。

貸出先の経営悪化に備える貸倒引当金は各行で減り、A銀行は9億円の戻し入れ益が発生した。想定よりも貸出先の財務が傷まず、引当金を取り崩した。通期でも引当金をはじめとした与信費用は前期比で大幅に減る見通しという。

国のコロナ対策としての公的保証の拡充が地銀を潤した。例えば、ゼロゼロ融資は一定期間の利息の支払いを免除する。地銀には借り入れた企業や事業者からの利息は入らないが、同額が国の財源で手当てされる。地銀はノーリスクで収入を得られる。また公的保証を充実させたことで倒産数は抑えられ、与信費用は前期よりも減っている。

大量に実行したゼロゼロ融資の返済が一部で始まり、これまでのような貸出金の大幅な伸びは期待できない。今のところは公的保証がつく借り入れで資金繰りを賄っていても、いずれ行き詰まる企業や事業者も出てくる。「近い将来、与信関係費用は増える」との声もある。

中部地銀の決算 (4~6月)			
	純利益	貸出金残高	与信関係費用
名古屋	25(72)	31852(6)	0.3(▲74)
愛知	35(2.4倍)	26040(15)	▲9(-)
中京	3(2.1倍)	15267(7)	2(▲64)
十六	63(60)	45107(2)	0(-)
大垣共立	30(8)	43284(1)	4(-)
百五	32(12)	40428(8)	6(29)
三十三	22(46)	27942(1)	0.3(-)

注) 純利益は連結、その他は単体。単位億円。貸出金残高は6月末。カッコ内は前年同期・同月末比増減率%。▲はマイナス、-は比較できず

貸倒引当金とは

売掛金や貸付金など、債権回収が不能になった場合に備え、各期の利益から債権の額に応じて積み立てておく金額のこと。債権のリスクに応じて適度な比率で引当金をあらかじめ積んでおけば、いざ回収不能となった場合、大きな損失を被るリスクを回避できる。近年、金融機関の融資先資金の回収ができない、いわゆる不良債権問題が表面化。銀行などは、融資先企業の返済能力を独自に判断し、回収できない可能性に備えて貸倒引当金を大幅に積み増す例が相次いだ。貸倒引当金には、個別貸倒引当金と一般貸倒引当金の2種類がある。

我々中小企業の場合、右の法定繰入率で貸倒引当金を計上することが多いです。

卸売業及び小売業 (飲食店業及び料理店業を含みます。)	製造業	金融業及び保険業	割賦販売小売業並びに包括信用購入あっせん業及び個別信用購入あっせん業	その他
10 / 1000	8 / 1000	3 / 1000	13 / 1000	6 / 1000